

5 かしわ選択ゼミ編

子ども自身が自分の所属するゼミを選択するという自主的な判断を行う機会の保障の観点から、本ゼミは、5～9月までの前期、10～2月までの後期といった2期制をとっている。また、ゼミは、毎月第2・4金曜日の午後2時間行っており、年間総合学習110時間のうちおよそ28時間をゼミの時間にあてている。

子どもがゼミを選択する際には、教師が立ち上げたゼミの案内文の一覧を提示し、その中から、自分の興味・関心の合ったゼミを「かしわ選択ゼミ発足集会」を開き、その場で選ぶようにしている。



発足集会の様子

今日、5・6限に選択ゼミの発足集会がありました。最初は期待と不安の交ざった気持ちで座っていました。プリントが配られ、まじまじと見つめ、目にとまったのは金沢の伝統を体験するゼミと絵本ゼミです。最初はどちらにするか迷ったけど、絵本ゼミにすることにしました。絵を描くのは好きだし、文章を読むのも好きなのでそれにしました。自分らしさを感じる存分に出来る絵本を描き、それを読んだ人がいい気持ちになるようなものにしたいです。来週の金曜日が楽しみです。

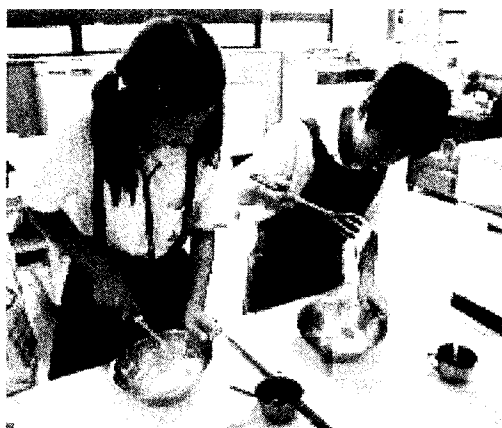
K児の感想より

このような発足集会を経て、前期では19ゼミが発足した。

前期選択ゼミ一覧表

	ゼミ名	内 容	人 数		ゼミ名	内 容	人 数
1	絵本を作ろう！ (図書室)	絵本のおもしろさを味わい、自作の絵本を作る	7人	11	季節の味 (2の1)	季節の様々な味を探し、味わう	15人
2	宮崎 駿の世界 (5の1)	宮崎駿の作品のおもしろさを追求する	10人	12	サウンド・オブ・ ふぞく (第1音楽室)	自然の音、季節の音などをたくさん集め記録する	4人
3	発見！金沢城の秘密 (金沢城見学)	金沢城の見学から当時の人々の思いを探る	14人	13	金沢アート発見隊 (図工室)	金沢の町にあふれるアートを探しコマージュを作る	6人
4	わざあり金沢 (3の3)	金沢の伝統の技にふれ金沢のよさを感じる	15人	14	食品研究～たまご～ (家庭室)	日頃食するたまごの特性を調べ様々な調理を体験する	18人
5	ワークショップ 未来都市「カナザワ」 を求めて (4の3)	まちづくりワークショップを通して金沢の未来像を探る	9人	15	ドッジボール (体育館)	東京スタアカップを目指し、公式ルールをもとにゲームを楽しむ	24人
6	チャレンジ算数 (5の2)	数と遊びながら、不思議で美しい数の世界を楽しむ	8人	16	リズムミックなわとび (体育館)	様々ななわとびの技を身につけリズムや曲に合わせて跳ぶ	14人
7	測って算数 (5の2)	身の回りのものを測り様々な単位の大きさを実感する	10人	17	ちょっとボランティア (3の1)	養護学校との交流を通してボランティア活動の意義や大切さを知る	10人
8	図形で算数 (5の2)	図形の世界に浸り形の不思議さおもしろさを味わう	7人	18	ハローイングリッシュ (第2音楽室)	英語を話す外国の方と触れ、その国の文化に親しむ	8人
9	光が情報を伝える (第2理科室)	光を使い情報を伝える工夫を考えたり光センサーを工作したりする	19人	19	テレビ番組を作ろう (コンピュータ室)	自分たちでテーマを決め、15分番組を作成する	20人
10	野草探検 (第1理科室)	野草の実態を観察し、野草のたくましさを感じとる	8人				

前期ゼミのおもな活動の様子



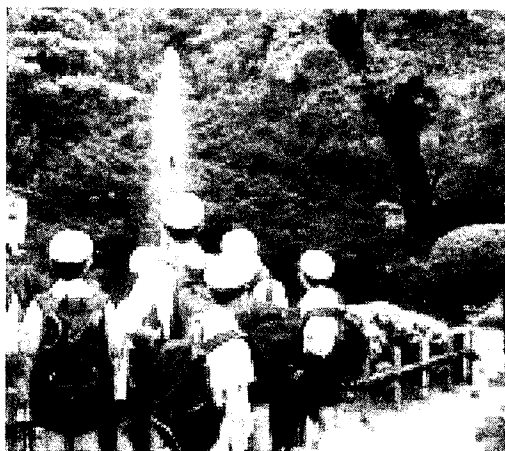
食品研究～たまご～

卵の黄身の乳化性を利用して、マヨネーズづくりに挑戦している



図形で算数

パターンプロックを使って、八角形を作成している



発見！金沢城の秘密

金沢城へ辰巳用水の水がどのような経路を通って入っているか確かめている

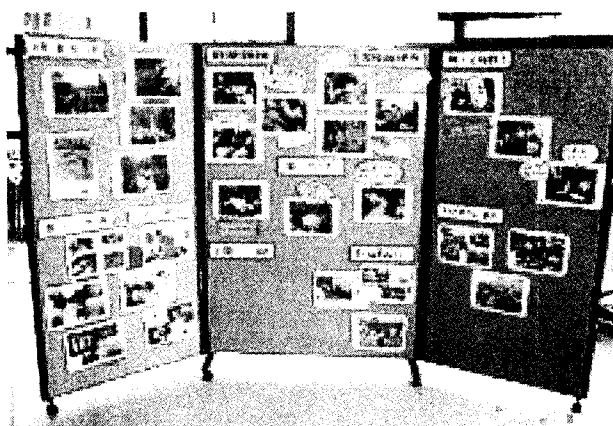


野草探検

学校内で生えている野草を採集し、どんな種類の野草なのか標本を作製して調べようとしている

上記に示した各ゼミの活動の様子は、右の写真にあるように掲示板を活用し、全校の子どもに知らせている。また、前期ゼミの終了時は、それぞれのゼミで活動してきた内容や成果を壁新聞や作品による掲示、ビデオなどで発表するつもりである。

このような掲示板あるいは成果発表の場を用意することによって、自分の所属以外のゼミの内容や活動の様子を知るとともに、これからのゼミを選択するための一つの判断材料になるように期待している。



ゼミの活動を紹介する掲示板

実践例1 一宮崎駿の世界一

- (1) ねらい
- ・作品の世界や作者の考え方に触れることによって「宮崎駿の世界」を自分なりに想像することができる。
 - ・自分なりに想像したことを交流することによって読みを深め、自分のものの見方考え方を広げていこうとする。

(2) 活動にあたって

本ゼミにおけるめざす子どもの姿について

国語科では、他者との関係の中で様々な言語活動を行うことによって、思考を深めたり、想像を膨らませたりしながら、心を育てていくことを大切にしている。自分が感じたことや思ったこと、考えたことを交流する伝え合いを通して、違ったものの見方や考え方に触れ、新たな自分を見つけることができるからである。また、自分の読書活動を広げることによって、心を豊かにし人格形成にも貢献できると考える。しかし、国語科の学習では、子どもにとって身近な作品を取り上げて、感想交流することは少ない。

それを受けて、宮崎駿作品を通して自分のものの見方や考え方をより広げてほしいと願って本ゼミを開設した。宮崎作品は、自然や家族愛、人間と自然との共存などテーマ性が高いだけでなく、アニメ映画として子どもにとって身近な作品である。多くの子が一度は映画化された作品を見ているであろうし、何度も繰り返し見ている子もいるであろう。しかし、映画を見ても感想交流まですることはなく、「おもしろかった」と流れてしまうことが多い。「おもしろかった」「また観たい」という思いを大切に、もう一度作品の世界を楽しむことができるようにしたい。そこで、本ゼミでは本を中心に読み進めていく。以前は何気なく見ていた行動や場面に立ち止まって見直したり、気になるセリフを心に刻んだりする中で、今までより深まった世界を味わえることを願っている。そして、作品から感じ取ったり読み取ったりしたことに自分や他者の思いや考えを重ね合わせることで、さらに考えを深めたり広げたりすることができるようになることをねらっている。このような活動を通して、映画のおもしろさだけでなく、ことばから自分が感じたことや想像したことを加えた作品の世界を楽しむことができればと考えている。

そのためには、まず宮崎作品のおもしろさや奥の深さを感じる必要がある。一つの作品について、互いに感じたことや考えたことを伝え合うことを通して、作品について考えることの楽しさを体験する。そして、たくさんの作品の中から自分が読み深めたい作品の一つを選び、これまでに国語科の学習で得た読みの力や方法を生かして自分なりにその作品の世界を想像していく。登場人物の性格や心情に迫る子もいれば、情景に目を向けて読み進める子もいるだろう。そして、互いに想像したことを交流し合うことで、それぞれのものの見方や考え方に触れ、違った視点で自分が選んだ作品をもう一度読み返し、その作品への理解がさらに深まっていくようにしたい。そして、それぞれの作品の共通点や相違点を探ることで「宮崎駿の世界」が広がっていくであろう。また、自分の心の中に、アニメ映画で感じたことに加え、文字言語から読み取った自分の思いや考えも入った「宮崎駿の世界」が広がっていくであろう。本ゼミでは、「互いの考えを交流する中で、宮崎駿の世界を広げていこうとする姿」をめざしていきたい。

めざす子どもの姿に迫るために

① 作品の世界や作者のものの見方、考え方に対して自らの学びの獲得を促す

ゼミの子どもほとんどが宮崎駿作品が好きであり、たくさんの作品をアニメ映画で見て知っている。しかし、一つの作品について読み深めたり、友だちと感想を交流したりしている子は、少ない。そこで、全員で一つの作品（一部）を見て感想を交流する場を持つ。互いのものの見方や考え方の違いを感じると同時に、作品のおもしろさや奥の深さを知るだけでなく、これからの活動の見通しが持てるであろう。また、図書室に「宮崎駿の世界」コーナーを設置することは、読み深めたいという意欲を高めてくれるであろう。

より主体的に作品にかかわっていけるように、たくさんの作品の中から自分が読み深める作品を選択したり、前期ゼミでの自分の活動の予定を立てたりする。読み深める時間を保障することも大切にしていきたい。一つのセリフに目を向ける子もいれば、登場人物に着目して読み進める

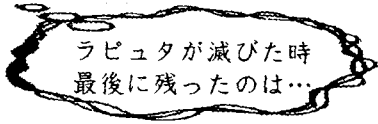
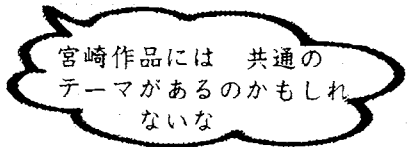


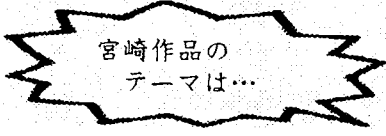

子もいるであろうが、その子なりの学び方を大切にしていきたい。また、感想交流する場を設けることで、自分の思いや考えを深めたり、自分とは違った視点から作品を見直したりできるようにする。その作品と別の作品の共通点や相違点を探ることもでき、「宮崎駿の世界」を広げていくことができるであろう。

② 自己評価活動で「宮崎駿の世界」の広がり の 自 覚 を 促 す

その時間に自分が考えたことや思ったことが残るように、作品ごとに「心のメモ」に書き込んでいく。自分の思いや考えが残るだけでなく、互いの作品に対する思いや考えを見合うこともできる。このことは、自分の思いや考えのよさに気づいたり、友だちの思いや考えのよさに気づき、自分の活動を見直したりすることになり、次の活動への意欲となっていくであろう。毎回の活動の終わりには、ふりかえりカードで自分の学びをふり返る。自分や友だちのよさを認め、広めるようにしていく。

「宮崎駿の世界」コーナー設置後には、全校の児童から感想をもらったり、宮崎さんの作品について話し合ったりすることで、さらに世界が広がっていくようにしたい。

(3) 活動計画

主 な 活 動 と 内 容	
<p>○宮崎駿作品について知っていることを話し合う</p> <p>『千と千尋の神隠し』『もののけ姫』『となりのトトロ』『天空の城ラピュタ』・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎駿さんの作品ってたくさんあるんだな ・『天空の城ラピュタ』を観て 感想を話し合おう ・見る人によって 感じる感じがうんだな 	
<p>○宮崎駿作品の中から一つの作品を選び 読み深めようー第1弾ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは『もののけ姫』を読み深めよう ・『千と千尋の神隠し』の登場人物の関係を探してみたいな ・気になったことばやセリフを書き残していこう ・この場面を読んで 友だちはどう思ったのかな 	
<p>○中間交流をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の設定がよく似ている作品があるな ・違う作品だけど どちらも自然の大切さを伝えているのかな 	
<p>○自分が選んだ作品を読み深めようー第2弾ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品をもう一度読んでみよう ・他の作品との共通している部分を調べてみよう 	
<p>○感想交流をしよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ぼくは『となりのトトロ』を読んで 自然のよさを感じたよ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>『もののけ姫』からも自然の大切さが伝わってきたよ 宮崎さんのメッセージかなあ</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	
<p>○図書室に「宮崎駿の世界」コーナーを作り 宮崎駿作品のおもしろさを伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなにおもしろさが伝わるといいな ・全校のみんなは本を読んで どんな感想を持っているのかな 聞きたいな 	 

(4) 活動の様子

① 宮崎作品について話し合う

本ゼミは、5年生3人、6年生7人の10人で活動している。どの子も本が好きで、普段からよく読書をしている子が多い。しかし、映画での宮崎作品に出会っている子がほとんどで、本での宮崎作品に出会っている子は2人だけであった。

第1回目のゼミでは、知っている宮崎作品をあげると、『千と千尋の神隠し』を始めとして次

から次と作品名があげられた。何度も映画を見たという子も多く、題名につけ加えて、心に残った場面を映画の1シーンを思い浮かべながら語り出す子もいた。その中で、6年生の一人が「宮崎作品にはメッセージがあるからおもしろいし、考えさせられる」という意見が出てきた。メッセージという視点で作品を見たことがない子もいたため、映画『天空の城ラピュタ』の後半を全員で鑑賞し、感想交流する場を持った。少人数なので、全員の思いが出しやすい場となった。「シータとパズーが行ったラピュタの自然がきれいだった」「最後にシータとパズーが助かってよかった」と、それぞれに心に残った場面や感じたことを交流する中で、「ラピュタがくずれ、最後に自然だけが残ったのは、自然の大切さを伝えたかったのではないかな」とメッセージにまで迫ることができた。また、シータとパズーの性格の違いにも目を向けさせることで、作品の奥の深さに触れることができた。この活動を通して、それぞれに心に残る場面も違えば、同じ場面でも感じることや考えることが違うということを感じることができ、交流することで作品をより楽しむことができるという体験をすることができた。ここで体験したことが、今後自分が作品を読み深めていく際の視点になっていった。

(資料1)

第1回目の活動の終わりには、今後の活動の予定を立てた。活動の終わりには、図書室に「宮崎駿の世界」コーナーを作るという目的を持つことで、読み深めたいという意欲を高めることができた。

② 一つの作品を選んで読み深めるー第1弾ー

読み深めたいという意欲をより高めるために、たくさんの作品の中から自分が一つの作品を選ぶようにした。選んだ作品は、『天空の城ラピュタ』1人、『千と千尋の神隠し』3人、『もののけ姫』1人、『となりのトトロ』2人、『耳をすませば』1人、『猫の思返し』1人、『火垂るの墓』1人である。自分が選んだ作品については、何度も繰り返し読んだり、繰り返し読む中で新しいことを発見したりすることができるので、読み深める作品についてはmy book（個人持ちの本）を持つことを勧めた。

第2回目の活動では、自分が選んだ作品を読み深める活動を行った。宮崎作品に魅力を感じ、このゼミを選んだだけあって、どの子も本での宮崎作品に没頭していた。同じ場面を何度も読み返す子もいれば、前のページにもどって読み直す子もいた。映画では流れていってしまうセリフや場面にじっくり時間をかけ、自分のペースで読み進めることができた。映画で見た作品の世界では感じることはできなかった世界をそれぞれの心の中に広めることができているようだった。ここで本ならではのよさに気づいたことが、今後の子どもの読書生活にも影響してくるであらう。

資料2 心のメモより

「千尋の気持ちが変わったのは？」

資料3 心のメモより

「ムスカのセリフに宮崎さんのメッセージが…」

～千と千尋の神隠し～
＜千尋の気持ち＞

ふしぎの国へ来た直後	現実へ帰るころ
泣く、泣きそうなことが多かった。	→ ちよっとやさしいことでは泣かない。笑える。
へんな人ばかりで、やだ、わりたくないという感じ	→ やる気、勇気がある。いまいきしている

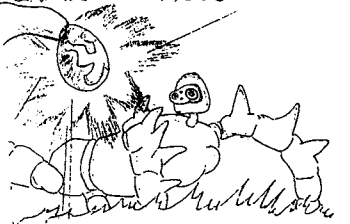
いろいろな意味で千尋は高まっている。

ふしぎの世界での生活は、千尋を高めるためのしゅけいのような...

天空の城ラピュタ 5組 NO.02

「天空の城ラピュタを作った目的、全世界は再びラピュタの下にひれ伏すのだ。」

宮崎駿さんはこのアニメムスカのセリフで戦争のこわさや人の命の重さを伝えたかったのだと思う。そしてアニメのラピュタは強大な力と人殺しに使用したがそういう強大な力は、良い方向へ使ったとも考えていると思う。



感想交流をひて

みんなほんと感じが良かった。みんなでも最終的には「自然」というものがキーワードで宮崎駿のこのお話で伝えたいものが伝わっていると思います。今地球ではどんどん自然が少なくなっているから、もっと自然を大切にしたら地球もラピュタのようになっていけるんじゃないか、というのかがメッセージだ、と思います。人間が都合で自然を動かしているように見えて、実際は自然が人間を動かしている。

資料1

『天空の城ラピュタ』の感想交流をして

③ 中間交流

第3回目の活動は、互いの思いや考え方に触れ作品への理解を高めるために、一つ一つの作品について前回読んだところまででの感想交流の場を持った。子どもは、教師が感心するほどの作品もよく知っているので、友だちが選んだ作品についても自分の思いや考えを伝えることができ、深まりのある交流の場となった。自分の作品について交流する中で、いろいろな視点ももらい、読み深めたいことを焦点化したり、他の子の作品について交流する中で、自分の作品はどうかとふり返ったりすることができた。『火垂るの墓』の感想交流の場で、「どうしてその題名になったか分かった」という感想が出てくると、自分の作品の題名にはどんな意味があるのかなと考える姿が見られた。新しい視点で自分の作品を読み返すことができているのであり、「宮崎駿の世界」を広げることにつながっていったと考える。

この交流の場では、心のメモを模造紙大にすることで、みんなで感じたことや考えたことが共有できるようにした。また、そうすることで、作品と作品とのつながりにも目が向くようになった。例えば、『耳をすませば』にも『猫の恩返し』にもパロンという猫が登場してくることや『となりのトトロ』『千と千尋の神隠し』にはススワタリが登場していること、『天空の城ラピュタ』『もののけ姫』は、どちらも自然をテーマにしていることなどである。中間交流の場を通して、互いの作品の世界を広げることができ、「～についてもっと読み深めたい」という思いにつながっていった。



中間交流にて

「タイトルにも意味があることが分かったよ」

④ 選んだ作品を読み深めるー第2弾ー

第4回目の中間交流で気になったことを中心に読み深めていった。この場でも、自分の作品に没頭する姿が見られたが、登場人物に焦点をあてる子もいれば、テーマにかかわって読み進める子もいた。1回目の読み深めでは広い視点で読んでいたのが、ここでは視点が焦点化した読み深めとなっていった。感じたことや考えたことは、模造紙大の心のメモに書き加えていった。互いに感じたことや考えていることが一目で分かり、互いの思いを交流するきっかけとなっていた。また、中間交流で作品と作品とのつながりが意識できたので、自分から友だちに「わたしは～思うんだけど、あなたは、どう思う？」と互いに意見を求めたり、他の作品ではどうなっているのだろうかとか他の作品を手にとり読んでいたりしていた。「宮崎駿の世界」を自分なりに広げていこうとしている姿の現れであろう。

第5回目は、読み深めを進めながら、図書室のコーナーづくりに向けてまとめていく活動も行っていた。全校のみんなが見てくれるようにと、「宮崎駿の世界」新聞としてまとめたり、登場人物を中心にまとめたりしていた。中には、自分が気づいたことをクイズに出している子もいた。



千尋の心の変化をさぐろう

⑤ 今後の課題

これからの活動では、読み深めた考えを交流する中で、「宮崎駿の世界」を広げていきたい。それぞれの作品から受け取ったメッセージを話し合う中で、作品の魅力を感じ、宮崎作品に共通したテーマに迫っていけるであろう。「宮崎駿の世界」コーナーの設置後には、全校の児童から感想をもらったり話し合ったりすることで、あるいは、他の宮崎作品（ゼミで扱わなかった作品）を読むことで、さらに世界を広げていきたいと考えている。また、宮崎作品以外の図書にも目を向け、広がりのある読書活動をしていってほしいと願っている。いろいろな作者、いろいろな分野の本を読み、様々なものの見方や考え方に触れることで、よりよい自分のものの見方や考え方を模索していくであろう。

実践例 ドッジボール

- (1) ねらい
- ・大会出場に向けて、ドッジボールにおける技能を高めることができる。
 - ・スポーツ（競技）をする時の基本的な心構えや身体的なメンテナンスを知り、日頃の生活でも生かしたり、実践したりすることができる。

(2) 活動にあたって

本ゼミにおけるめざす子どもの姿について

本校の体育科では各運動領域の特性に応じて多様な動きを経験させていくことをねらいとし、カリキュラムを構成している。子どもは「仲間」（ひと・もの）とかかわりながら活動していく中で、ルールや活動の場を工夫したり、運動技能の可能性を開拓したりしながら、運動する楽しさにアプローチしていくと考える。さらに、運動する楽しさにアプローチしていく経験を積み重ねていくことにより、生涯にわたり運動に親しみ、よりよいライフスタイルの形成の一助となることを願っている。本ゼミは、「ドッジボール」というボール運動を主に技能構造的な視点から見つめさせ、競技スポーツの持つ効果的特性に迫りながら、主体的に運動に取り組ませていくことをねらいとし開設することにした。

日頃行っているドッジボールは集まってきた構成メンバーでルールを話し合ったり、自分達が楽しめるように場を工夫したりして活動している。つまり、運動する際、その運動要素に注目し、その運動にかかわる条件（用具やルールなど）を自分達で決定して運動しているのである。一方、競技スポーツの特性からみると、活動するコートの大さき、ボールの種類、ルールなどの条件が既に定められている中で、必要な運動技能を高めたり、戦術を考えたりして運動に働きかけていく。本ゼミでは、子どもが日頃親しんでいる「ドッジボール」に後者の視点からかわらせ、運動のもつ楽しさに迫っていきたいと考える。そこで、本ゼミにおけるめざす子どもの姿を「これまでとは違った運動（スポーツ）へのかかわり方を知り、運動することを楽しもうとする姿」と考える。

本ゼミでは、大会出場を目標に掲げ、ゲームにおける勝敗を意識させていく。公式ルールのもとゲームを行う中で、運動技能（ボールを投げたり受け取ったり）を高めたり、自分たちのグループに合った作戦を考えたり、ルールを守ってプレーしたりすることが対戦チームに勝つために必要要素であると感じさせながら活動させていきたい。また、仲間とかかわり活動していく中で、他を思いやるやさしさや勝つという共通の目標に向かって努力し、次の活動に生かそうとする態度なども身につけていってほしいと考える。併せて、スポーツ（競技）を行う時の身体的なメンテナンス（テーピングの意味や仕方、水分補給の意味など）の大切さにも触れていく。

めざす子どもの姿に迫るために

① 競技スポーツとしてのドッジボールに対して自らの学びの獲得を促す

本ゼミでは、ボールの種類、コートの大さき、ゲーム中のファールなど、できる限り日本ドッジボール協会の定める条件のもと活動していく。公式ルールを適用し、きびしく判定していくことで、日頃自分達が行ってきたドッジボールとの違い（決められた条件に合わせて運動する緊張感や思い通りにプレーできないもどかしさ、多様なゲーム展開など）を感じさせていく。

ゲームにおいて、勝つためには「ボールを投げたり受けたりするのが上手な人」ばかりでなく、「逃げるのが上手な人」や「チームに合った作戦を考えることが得意な人」などいろいろな役割の人が必要であることを知らせ、併せて一人一人がチームにとってかけがえのない存在であることを感じ取らせていく。そして、「自分にはこんなことができそう」「こんなプレーヤーになりたい」などドッジボールのゲームにおける自分の思いをもたせていく。そして、状況に応じてボールの投げ方を変えたり、次のプレー（味方へのパスや相手へのアタック）につなげやすいフォームで受け取ったりすることが、勝利につながることに気づかせることで、漠然と運動するのではなく、明確なめあてをもって活動させていく。また、チームで統一された戦術でゲーム

を行うことや、互いに助け合ったり協力し合ったりしてチームワークを高めていくことも、相手チームに勝つために必要なことであるということに気づかせていく。

必要に応じてドッジボール協会公認指導員のアドバイスも求めていきたいと考えている。より専門的な視点から、大会出場に向けての心構えや基本的な技能（投げる、受ける、構えるなど）に対する助言により、意識や技能のさらなる高まりをねらっていききたい。

② 自己評価活動で競技スポーツとしてのドッジボールに働きかける自分のよさの自覚を促す

競技としてのドッジボールを学習していく中で初めて知ったことや分かったこと、自分のめあてに対しての取り組み方をふりかえりカードを用いて自己評価していくことで、思いや動きの高まりを感じ取らせていく。また、同じチームのメンバーで練習やゲームにおける動きを見合ったり、アドバイスをし合ったりすることを通して変容の自覚を促していきたい。


(3) 活動計画

主　な　活　動　と　内　容


「ドッジボールの大会に出場し　勝つ！」

① ドッジボール協会公認指導員に　助言をうける

- ・体全体を使って投げると速く投げれるんだ
- ・いろいろな練習の仕方があるんだな




② ドッジボールの公式ルールを知り
基本的な練習やゲームをする



- ・いろいろなルールがあるんだな
- ・ラインクロスに気をつけたいな

③ 大会出場に向けて基本的な心構えを知り
自分達でできることを考え　実践しようとする


④ 大会に出場するために大切なことは何だろうか



- ・日頃の学校生活でも決まりやルールを守る
- ・ボールや使うものを大切にしよう
- ・あいさつやいいことは自分から進んでできるといいな

⑤ ドッジボールゼミを選ぶ

- ・ドッジボールを思いっきりやりたい
- ・ドッジボールの大会に出たい




大会に出場するには　ドッジボールが上手になるだけでなく日頃からいろいろなこと
に対して努力していかなければいけないんだ


大会に出たい
試合に勝ちたい

・声を掛け合いながらプレーすることは大切だよ
・ルールを守らないと勝てないよ

ドッジボール協会
公認指導員



試合の時間やプレーヤーの人数など
しっかり決まっているんだよ



・運動する時　水分補給を
することが必要なんだよ
・テーピングはけがの応急
処置や予防の時に使うよ

(4) 活動の様子

① 大会出場に向けて基本的な心構えを知り　自分達でできることを考える

本ゼミ最大の目標は「大会に出場し、勝つこと」である。ただし、大会に出場するまでには幾つかのクリアしなければいけない課題があることを子どもに伝えた。ひとつは個々のドッジボールにかかわる運動技能の高まりである。もうひとつは日頃の自分の生活を見直していくということである。特に後者については大会出場や試合に勝つということとは関係はないように思えるかもしれないが、どちらも「ルールやきまりを守る」とい

表1　日頃の生活で自分ができそうなことは？

- ・あいさつや返事大きな声で自分からしようと思う
- ・他の人に対しての言葉づかいを気をつけていきたい
- ・ボールを大切にしていきたい　後始末もきちんとしてよう
- ・バスマナーを守っていきたい（大きな声を出さない、順番を守る）
- ・遊ぶ時間や遊びの決まりを守っていきたい
- ・低学年や他の人にやさしくしていきたい
- ・いろいろな企画を考え　実際にみんなでやっていきたい

う点では共通するのである。また「人の話をしっかり聞く」や「挨拶をきちんとする」「良いと判断したことを実行する」など日常の生活のみならず、どれも大会や試合中に起こりうる場面ばかりである。つまり、「ドッジボールばかり」ではなく、日常のあらゆる場面で、大会に出場し勝つための準備や心構えは形成されていくということである。このような視点から、第1回目のゼミの時間に、自分の生活をふり返り、「自分にはどういったことができるか」を考えさせ、日頃から実行できるように声かけをしたり、がんばりを認めたりしてきた（表1参照）。

② ドッジボールの公式ルールを知り 基本的な練習やゲームをする

昨年度の「チャレンジドッジ」ゼミ開設から参加している子どもが数名いたため、大まかなルールについては子ども同士で教え合うようにした。その他ゲーム場面における細かなルールやきまりについては、その都度、教師が指導してきた。昨年度の「チャレンジドッジ」のめあては、「ドッジボールの公式ルールを知り、そのルールのもとでゲームを楽しむ」であったが、今年度は、「大会に出場し、勝つ」というより明確な目標を持たせ、ねらいの上でもレベルアップしたものとなるため、ルールを理解することについては徹底を図ってきた。

練習やゲームにおいても、常に「大会に出場して、勝つ」ということを意識させながら、「何のためにこのようなことが大切なのか」と子どもに考えさせたり、教師が説明しながら行ってきた。そのような活動を通して、「大会で勝つために」といった視点から思いや意識が高まってきたように感じとれる（表2参照）。

子どものふりかえりカードをみると、初めのうちは個々の技能の習得にかかわる思いや感想が多いが、第5回目（1学期最終）のふりかえりをみると、チームにおける自分自身の役割や、相手チームとの比較によって、自分達のチームのプレーや取り組みを振り返り、次に生かそうとする姿勢がみられるようになってきた。

③ ドッジボール協会公認指導員に助言をうけるーより専門的な視点からー

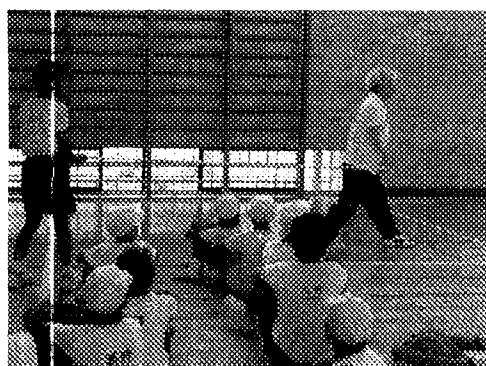
夏休みに入り、県のドッジボール協会の方に来て頂き、指導をお願いした。ボールの投げ方や受け取り方、チームでの守り方、ルールを守ることの大切さなど、これまで以上に専門的な視点からのアドバイスをして頂くことができた。練習終了後、子どもに「ドッジボール協会の人に教えてもらって、初めて知ったことや気付いたこと」についてふりかえった（表3参照）。投げ方1つ例に挙げても、「手のひらで」「右利きの人は左足に体重をのせて」「耳の上から」などこれまで漠然とボールを投げていた子どもにとって、より細かで高い技術を要求されたが、意欲的に取り組むことができた。また、補助具を使用しての投げ方の練習、逃げる時チームでステップ

表2 ふりかえりカードより

第2回 ～ 第4回 ゼミ	・試合に負けたのは悔しいけど 相手チームから声を出すことの大切さを学んだ
	・大会出場の第1歩を踏み出した もっと練習をして上手になりたい
	・去年と違って練習がはげしかった
	・ゲームの中でファールをたくさんしてしまった
第5回 ゼミ	・バスの練習ではキャッチする時にジャンプしたら捕れた
	・もっと速くボールを投げれるようにしたい
	・1分間コート内を動き回るだけでも疲れた
	・これから恥ずかしがらずに 挨拶をしていきたい
	・ゲームをして いいところや悪いところを分かり合えた
	・チャンスにラインを踏んでしまっって残念 次は踏まないように練習
	・練習の仕方をもっと考えていきたい
	・ゲームの中で 全体を見渡せる広い視野が必要と思った
	・声を出しまくった さすがに大変だった
	・前よりも攻めも守りも上手になったような気がする
	・1学期の初めは挨拶を注意されることが多かったが 自分からできるようになった
	・1学期を終えて結構上達はしたと思うのだが 何かが足りないような気がする チームワークだろうか？声の大きさだろうか？このまま大会に出場しても満足にはできないと思う
	・できることを精一杯やるのが大切 もっと動き回りたい
	・ぼくはアタックよりバスを回す役割だと思う
	・自分だけでなく みんなで声を出していたのでよかった
	・最初は全く声が出なかった 自分は投げるよりも逃げた方がいいかもしれない
	・相手のチームのように大きな声を出して確実なものを得たい



練習の様子（コート内での動きをイメージして）



投げ方についての助言をうける

を合わせる練習は子どもにとっても、これまで触れられていなかった内容であったり、大会出場を間近にひかえた子どもにとってタイムリーな内容であったため、真剣に話を聞き、練習に取り組むことができた。

④ ドッジボールの大会に出場する

7月27日、「第13回ドッジボール選手権石川県大会」に出場した。予選リーグを1勝1敗1引き分けの2位で通過し、決勝トーナメントに進出することができた。本ゼミの当初の目標である「大会に出場して、勝つ」は達成された。子どもは相手チームや大会独特のプレッシャーを感じながらも、自分達の力（これまで練習してきたこと）をコートの中で思う存分発揮できたと考えられる。また、決勝トーナメント1回戦の前に「次の試合に出たい人？」と聞いてみたところ、全員の手が挙がった。優勝候補のチームを目の前にして、怯むことなく意欲を前面に出せるようになってきた。ゼミでの練習、そして大会出場を通して、普段休み時間などで行っているドッジボールとは違ったドッジボールという競技スポーツの楽しみ方を感じ始めているものと考えた。



試合の様子

にして、怯むことなく意欲を前面に出せるようになってきた。ゼミでの練習、そして大会出場を通して、普段休み時間などで行っているドッジボールとは違ったドッジボールという競技スポーツの楽しみ方を感じ始めているものと考えた。

⑤ 今後の課題

先にも述べたように、本ゼミの大会における大きな目標は一応達成できたが、第1回目のゼミの時に立てた日常生活や学校生活レベルでの目標の達成度には、まだ疑問が残る。ドッジボールゼミで学んだことや感じたことを実際の生活に生かしていくという点である。大会を終えて、ドッジボールにおける技能ばかりでなく、日頃の生活でも意識し行動できることに注目しているふりかえりの内容が多くみられた（資料1参照）。

今後のゼミでは、競技スポーツとしてのドッジボールにおける必要な運動技能や意識をさらに高めながら、競技スポーツの持つ楽しさに触れさせていく。同時に、自分の生活をふりかえったり、よりよく生活していこうとする姿勢を認めながら、取り組んでいきたいと考えている。

表3 初めて知ったこと／気付いたこと

- ・体全体を使ってダイナミックなプレーをする
- ・ハスとアタックの区別をする
- ・頭はセーフだけど 髪の毛やハチマキはアウトになる
- ・腰を低くして構える
- ・突き指をしたら試合には出られない テーピングも認められない
- ・ステップをするスペースを確保してボールをキャッチする
- ・サイドスローよりオーバースローで投げた方がいい
- ・手のひらでボールを投げる 耳の上からボールを投げる
- ・右利きの人は左足に体重をかけて投げるといい
- ・準備体操の時は指をしっかりと体操しておく
- ・足をとめないでプレーする
- ・せっかくもらったボールを中途半端に投げない
- ・キャッチする時は 下がって腰を低くする
- ・外野にハスをする時は正確にする
- ・常にボールが前、後ろ、横からくることを想定して練習する
- ・外野でも内野でもラインから3歩程度のところで構える
- ・ジャンプボールの時に立つ位置を工夫してスタートしよう

資料1 子どものふりかえりより（大会を終えて）

今日、ドッジボールの大会がありました。1学期の1番初めから、この大会までに学んできたことはいっぱいある。どんなことも真剣にやること、自分の役割を見つけること、心を合わせてプレーすること、最後まで精一杯がんばることです。2学期は、この4つを生かしてプレーしていきたいです。あと大会では、ちょっと緊張したけど、精一杯できたと思います。（A.K）